

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念に基づいて、グループホームとしての理念がある。職員は念頭に置いて実践する努力をしている。	事業所の玄関に法人の理念と事業所の理念が掲示してあります。会議の中で振り返り、取り組んでいます。職員は、事業所の方針を理解して取り組んでいることが伝わります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の中学から、お茶会のお誘いがあつたが都合がつかず出席できなかった。	ベテラン職員が地域に何名か住んでおり、地域の情報が入ります。開設以来自治会に加入し、隣接の独居老人の支援をしています。中学校との交流は車の手配の関係で交流できませんでしたが、交流は続く予定です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近所の方(独居高齢者)からの依頼があり、落ち葉の除去・清掃を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの方にも出席いただき、近況報告や取り組みについて報告して、意見や助言をいただいている。	運営推進会議は2か月に1回開催しています。利用者様の動向、職員の研修、事故報告など話し合わせ意見や提言をいただいています。いただいた提言など、すぐできることは速やかに対応し質の向上に努めています。職員は共有しています。	議事録をご家族に発送し、事業所の取り組みが理解されればと思います。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	上田市高齢者介護課支援担当者に、運営推進委員のメンバーになっていただいている。サービス向上を目指して、相談や助言をいただいている。	運営推進委員に高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員が出席していることから、情報交換ができており、助言などをいただいています。困難ケースや待機者についても相談をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、研修や委員会を開催し、職員同士でケアに対して検討を行い、身体拘束をしない方法について考えている。	身体拘束委員会の開催、研修などで身体拘束の理解を深め「身体拘束をしない」支援に努めています。スピーチロックの研修もあり、日々の声掛けには十分な注意をしています。職員同士がお互い注意できる環境にあり、管理者もなれ合いに注意をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止について、研修や委員会を開催し、職員は自らの行動を振り返りながら虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている利用者様があり、制度について職員間や後見人と話をする機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項説明書他、書面を用いて丁寧に説明している。ご家族に納得していただき、不安のないよう対応している。質問等もその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員が来園され(4/24、7/9)、利用者様と懇談されている。ご家族に毎月、手紙と写真を送って近況をお伝えしている。いつでもご意見をいただけるようにしている。	毎月、近況をお手紙や写真を添えて送っていますが、あるご家族に利用者様の自筆を添えたところ、ご家族が大変感動し喜ばれたと管理者から聞きました。利用者様の残存機能に目を向けています。ご家族との信頼関係を構築するため、意見を言いやすい環境に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員の意見や提案を聞き、健全な運営に反映する努力をしている。	管理者は、日々の業務の中で職員とコミュニケーションをとって意見や提案を聞いています。人事考課制度の中でも話し合いをしています。利用者様の健康管理や職員自身の健康管理に気を付けて、健全な経営に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれ役割分担があり、責任を持って遂行してもらっている。希望者には資格取得に向けた支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	令和7年度認知症介護実践者研修に参加を予定している。事業所内研修を計画して行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は他のグループホームとオンライン会議を行い、情報交換をしている。相互訪問はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご本人の意見をお聞きして、訴えや希望を、その方にあったサービスに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望をお聞きして、初期の段階から安心していただけるよう努めている。信頼していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族のお話をよく聞き、その時に必要な支援を決定して対応している。職員間で情報を共有して随時ケアを見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者に寄り添い、傾聴・受容・共感の姿勢をとっている。利用者様に安心していただける関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に利用者様の様子について、手紙と写真を毎月送付している。変化時はその都度報告し対応について意見をお聞きしている。面会は希望時に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族・ご親戚・ご友人などが来園され、面会している。一時帰宅も行い、関係が途切れないよう努めている。	昔の仲間に出会えるために、ある利用者様は娘に迎えに来てもらって出かけています。ご家族や親戚の方の来園、隣接のデイサービス利用の利用者様との交流など、関係の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い方が自由に交流できるように、席の配置に考慮している。利用者様にとって居心地の良い場所を作り、生活が楽しめる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談があれば対応している。住み替え等でグループホーム契約終了時には、ご利用者様とご家族へのフォローをして必要な情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを汲み取れるように日々関わり、お話を聞いている。ご本人の意向に沿ったケアを心掛けている。困難な場合は、ご本人の目線に立って、より良い支援ができるように努力している。	職員は、日々の関わりの中で思いや意向を聞くように努めて、連絡ノートに記載しています。職員は、連絡ノートを必ず読み共有しています。困難な場合はご家族に聞いたり職員同士で話し合っ、汲み取る努力をしています。本人本位に検討し、介護計画に反映します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族の話をお聞きしている。フェイスシートや関係者などからの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士で、日々情報交換をしている。連絡ノートがあり、必ず目を通して。体調の変化時はすぐ対応できるようにしている。日々、利用者の状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した計画を作成している。定期的に職員からも意見や提案を聞いている。	日々の思いや意向は連絡ノートに記載され、職員で共有しています。担当職員は3か月に1回モニタリングを行い、それをもとにカンファレンス、ご家族に説明して、本人本位の介護計画を作成します。利用者様、ご家族に変化が生じれば介護計画を見直します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の利用者の様子を個人記録に残している。職員は必ず目を通して日々の支援に繋げている。細かい事を送る連絡ノートがあり、よりきめ細かい対応をしていく仕組みがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望に、可能な限り対応している。利用者一人ひとりのニーズに合った支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの受け入れはできなかった。介護相談員さんより情報をいただけたので、順次受け入れしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望されるかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は、個人の記録と共に保管して、職員間で共有している。	入居時に、今までのかかりつけ医のお話を聞き、事業所の医療体制について説明をします。ほとんどのご家族は事業所の協力医を利用し、訪問看護と連携しながら利用者様の健康管理を行っています。情報の共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護を利用している。職員は利用者の状態を観察し、必要に応じて相談して、変化時は迅速に対応できる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には医療関係者と十分に情報交換をして、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した方がおり、家族の意向を確認して、より設備が整った特別養護老人ホームへの住み替えを行った。ご本人、家族の希望に沿えるように、その都度確認している。	重度化や終末期ケアの方針は、入居時に説明をしています。重度化した利用者様はご家族の思いを大切に、ご家族の近くの特別養護老人ホームに移行して見守られています。事業所でできること、できないことを理解していただいて、ご家族に寄り添う支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時には初期対応ができるように勉強している。対応マニュアルを用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	R6年・8月大雨の際に安全な場所に避難した。法人内の協力があり、スムーズに避難できた。消防訓練は年2回(2月・7月)実施している。	災害を想定した訓練は2回行っています。訓練の様子は廊下に掲示してある写真から真剣さが伝わります。大雨が予想される天気予報で、事前に当法人内の施設に避難した経緯があり、災害に十分な対策をとっています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	集団生活においてプライバシーが厳守されているとは言えない所もあるが、一人ひとりの人格を尊重した対応(言葉遣いや行動)をするように努めている。	唯一プライバシーを確保できるお部屋の入退出では、声かけやノックをして、十分な配慮を心がけています。理念の「個人の尊厳を大切に」が活かされています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で本人の希望を引き出せるようなアプローチをしている。本人が選択できるような工夫をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者のペースに合わせて動くようにしている。利用者が何をしたいのか、日々の生活から観察をして、本人の希望を引き出すように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装については、ご本人の希望や好みに沿って提供している。散髪は2ヶ月毎に1回理髪店が来園して対応している。(本人の好みを聞きながらカットする)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に1~2回食事企画を行い、季節を感じていただけるメニューを提供している。利用者の希望も取り入れている。料理の下ごしらえから片付けまで利用者と一緒にしている。	搬入された食材を下ごしらえから片付けまで利用者様と一緒にっており、包丁の音や香りなど食欲がそそられます。職員と一緒に食べて、味付けなど話しながらの楽しい食事です。廊下には、ぼたもちや流しそうめんなど、季節の行事食での利用者様の楽しい写真があります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立になっている。量や水分も計測して記録している。一人ひとりの運動量に合わせて提供している。食事形態にも配慮して、食べやすいように工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は口腔ケアの重要性を学んでいる。食後は必ず口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、支援の必要な方には対応して、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握できるようにチェック表を用いている。必要に応じて誘導している。パッド等は個々にあった物を使用して、経済的になるように配慮している。(日中と夜間の使い分けなど)	排泄チェック表を用いてトイレ誘導を心がけています。リハビリパンツやパットなど、できるだけ使用しない取り組みをして負担の軽減に取り組んでいます。あからさまな声掛けなどをせず、利用者様の尊厳に配慮した取り組みです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならないように、食事、水分、運動などできる事を行っている。個々の排便パターンもチェックしている。下剤、整腸剤は訪問看護師と医師に相談して処方していただいている。排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴表に沿って実施しているが、利用者の状況によって柔軟な対応をしている。利用者が快適に入浴を楽しめるように工夫をしている。(音楽を流すなど)	入浴表に沿って2時から4時ぐらいまでの入浴です。やや大きめの浴槽で、以前は仲の良い利用者様同士で入浴をしていたこともあったようですが、今は個浴対応です。温泉は大変好評で体も温まります。童話の音楽などを流し、楽しい入浴です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のリズムに合わせた対応をしている。個室でゆっくり休めるよう環境整備している(寝具や室内温度等)。日中は運動や散歩を取り入れて、夜間は安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳と薬の詳細ファイルがあり、職員は内容を把握している。状況の変化がある場合は、医療と直ぐに連携をとっている。記録にも残して情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の嗜好に合わせたレクリエーション(塗り絵・歌・パズル・本)などを提供している。生活の中で職員と一緒に家事も行っている。個々の得意な分野で活躍できる場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	実行可能な事は積極的に行った。(事業所内の職員のみでのドライブ外出、野外散歩など)	暑い日や寒い日を除き、天気の良い日は観音様へ散歩に行ってストレス発散や気分転換を図ります。季節に合わせた行事のドライブ、飛び込んでくる話題の場所への外出ドライブなど、多様に外出を心がけて利用者様に喜ばれています。1ユニットだからこそできるスピード感があります。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理をしている利用者はいない。日常生活で必要な物については家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があればご家族に電話をかけ、お話しされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が快適に暮らせる環境作りをしている。利用者が作成した季節の装飾品や行事の写真などを飾っている。季節の花も置いている。トイレ、居室など場所が分かりやすいように、張り紙なども工夫をしている。	共有スペースは、適温・適湿で居心地の良い空間です。壁には利用者様の作品やそれぞれの行事の写真が沢山飾られ、日常生活がわかります。「鹿教湯富士」と呼ばれる山を正面にとらえ下方に視線を移すと車の行き来が見えます。静と動、四季折々のロケーションは利用者様を和ませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々に居心地の良い場所がある。そこで寛げるように提供している(寛げるソファなど)。席の配置についても考慮して、快適に過ごしてもらえる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	心地良い居室作りに努めている。好きな物に囲まれて安心して過ごせる環境作りをしている。(好きな動物・家族の写真・手紙など)	慣れ親しんだダンスやイス、そして家族写真などを持ち込み、安心して生活できる環境に努めています。置き場所は自由で好みに任せていますが、動線に気を付けています。お部屋はきれいに整理できています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が分かりやすい表示をしている。園内はバリアフリーで、廊下には手摺りがある。それぞれの居室前には見やすい表示(利用者の目線で)をし、分かる工夫をしている。利用者の残存機能を活かせる環境作りに努めている。		